

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380710

研究課題名(和文)トランスナショナルなコミュニティとローカル・コミュニティの協働メカニズムの研究

研究課題名(英文)A Study on the Cooperative Mechanism between Local and Transnational Communities

研究代表者

水上 徹男(MIZUKAMI, Tetsuo)

立教大学・社会学部・教授

研究者番号：70239226

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：商店会などの地域のコミュニティとトランスナショナルなアクターを含むエスニック・コミュニティの関係について東京圏で、聞き取り調査等を実施した。2つの国の間でビジネスを展開して往来するケースなど、トランスナショナルなアクターについてを観察できた。調査対象として、主に池袋地区、一部大久保地区での情報収集を行なったが、緩やかなつながりが存在しているが、協働のプロトタイプのような形では進展していない。双方のアプローチの進展次第では、地域の活性化に結びつく可能性もあり、今後も実証的な調査を進める予定である。

研究成果の概要(英文)：The objective of this research is to ascertain the cooperative mechanism between local communities, including shopping malls, and ethnic communities, embracing transnational actors. Fieldwork was conducted mainly in the Ikebukuro district in Tokyo. We can find the existence of some loose networks between them, albeit hardly find the strong ties for cooperation each other. When the both groups approach more actively, there are possibilities for inducing the local revitalization. Thus, it is required to continue the research in order to present the agenda for the prospective inner city re-development.

研究分野：国際社会学

キーワード：トランスナショナリズム エスニック・コミュニティ エスニシティ 移住 トランスナショナルなアクター インナーシティ 東京

1. 研究開始当初の背景

東京は世界の主要なビジネスセンターの一つであり、商業機能が集積しているだけでなく公共交通機関の発達も目覚ましい世界都市である。ことに池袋、新宿、渋谷などの副都心は、それぞれに世界を代表するアメニティが充実したエンターテイメント・センターでもある。エスニック人口の集中という点からみると、新宿は大久保地区を中心としたコリアン・タウンとして知られており、池袋は近年チャイナタウン構想が、メディアなどでも注目されるようになった。

本調査では、豊島区池袋を主な調査対象地とする。東京のターミナルとして、また商業活動の中心として重要な役割を担ってきた池袋地区は、1980年代半ば以降に外国人住民が流入して、エスニシティと関連した社会変動を経験した。その後20年以上を経て、これらの地域では、「ニューカマー」とカテゴライズされた外国籍住民の定住化、帰国、さらに海外からの新規住民の流入などが継続的に発生している。池袋や新宿区新大久保近辺はアジア圏を出身とする外国人が急増したこともあり、1990年代初期以降様々な社会学の調査対象になってきた。日本の中国系メディアの半分が池袋地区から発信されており、中国コミュニティの中でも重要な場所である。買い物や食事などで池袋を訪問する中国出身者は東京圏を超えて集まり、約1万人の登録人口としての中国出身者に加えて、1万人以上が通ってくると言われる。

これまで研究代表者(水上)は、外国から移住してホスト社会に滞在する多様なタイプの居住者の類型を行ってきた。今回の調査対象地となる池袋には、多様なタイプの永住者や長期滞在者が含まれ、出身国とのトランスナショナルな絆が形成されている。しかし、エスニック・ビジネスが発展していても、必ずしも地域の振興や商店街と連携した活動に結びつくわけではない。協働連携になかなか進展しない商店会などのローカル・コミュニティとエスニック・タウンの回路の形成を探るにあたり、双方のインタビュー調査などを行って、実情を把握、今後のエスニック人口を抱えた地域のあり方に関するモデルの提示や政策への提言などを計画している。

2. 研究の目的

本研究の主な目的は、エスニック・ビジネスが進展している東京の都心を調査対象地として、エスニック集団が形成するトランスナショナルなコミュニティとローカルなコミュニティが如何に協働するかについて、実証することである。双方が必ずしも協働体制に至らない場合であっても、双方のチャンネル形成や地域社会への影響を明らかにし、協

働の可能性を求める。より具体的には、海外から訪れた住民が、どのようなトランスナショナルなネットワークを形成しているのか、またそれが、ローカルなビジネスである地元の商店会を含めた地域と如何に関わるか、あるいは関わらないか、など具体的な事例をあげたい。そのうえで、トランスナショナル・マイグラントが地域に参加している状況から、トランスナショナリズムに関する理論の日本的なあり方を検討、推敲することを計画した。

3. 研究の方法

フィールドワークを含めた調査において、情報提供者となる団体の代表らとはすでに連絡を取り合っている。池袋地区ではすでにエスニック・ビジネスの展開や商店会とのかわりなどに関するフィールドワークを実施してきたが、さらにニューカマーによるエスニック・コミュニティの歴史的展開などの課題を含めて、統計資料や関連する文献などを整理する。計画通り調査が進行しない場合には、資料を整理して成果をまとめる。すでに池袋地区での調査は、継続しており、エスニック集団が中心となって開催するイベントなどにも参加してきた。

大都市のエスニック・コミュニティに関する研究については、海外の研究者との情報交換を継続した。

4. 研究成果

豊島区の登録外国人は、現在(2017年1月)約2万7千人であり、豊島区全体の9.5%を占めた。中国出身者は約1万2千人となり、豊島区の4.2%を占めている。フィールドワークや聞き取り調査によって、この地区の中国出身者によるコミュニティの特徴をある程度示すことができた。

- (1) 池袋の中国出身者によるコミュニティは、単にエスニック・ビジネスを中心とした都市エンターテイメントに集まるだけでなく、中国語のメディア発信による情報提供など様々な意味を持つ。
- (2) 商店会などの地域のコミュニティとの協働については、様々な見方ができるだろう。池袋の地域活動の中で、中国出身者による清掃活動や地域の祭りなどのイベントに参加したり、次第に共同した活動の幅は広がってきている。
- (3) 当初、エスニック・コミュニティ内のトランスナショナルなアクターを探してのインタビューを試みる

予定であった。数は少ないが、日中間を往来してビジネスを展開しているケースのインタビューもできた。日中間でビジネスを行う際には、2 国間の関係が大きく影響し、そのために転職を余儀なくされることもある。

地域のコミュニティとトランスナショナルなアクターを含むエスニック・コミュニティの関係については、顕著な協働体制までは発展をみていないようであった。また、池袋地区以外の大久保地区での情報収集を行なったが、緩やかなつながりが存在しているが、協働のプロトタイプのような形は見つっていない。双方のアプローチの進展次第では、地域の活性化に結びつく可能性もあり、今後も実証的な調査を進める予定である。日本の大都市におけるトランスナショナル・コミュニティとしての理論化に向けては、継続的なデータ収集が必要になっている。しかしながら、池袋という都市の特性や東京のエスニック・コミュニティの実情、トランスナショナルなアクターの存在については、国際会議などで発表することができた。また、論文としても成果を発表することができた。調査自体は継続しており、人口統計などのよりマクロなデータとの組み合わせなどにより、現在同地区を対象とした新たな調査設計を試みている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

MIZUKAMI, Tetsuo. & Yasushi Matsumoto
“International Symposium on the “The Wind from the Future: Sustainable Urban Development in East Asian Cities.”” 『グローバル都市研究 (Global Urban Studies)』
査読無、第10号、2017、43-48.

MIZUKAMI, Tetsuo.
“Urban Regional Developments in Inner City Tokyo: Toshima City Projects and Significant Sites of Local Cultural Heritage.” 『社会学研究科年報 (Bulletin of Sociological Studies)』
査読無、第23号、2016、7-18.

https://ndlopac.ndl.go.jp/F?func=find-c&ccl_term=001%20%3D%20027426138&adjacent=N&x=0&y=0&con_lng=jpn&pds_handle
三

MIZUKAMI, Tetsuo.
“The Characteristics of Notable Ethnic Towns in Tokyo.” 『グローバル都市研究 (Global Urban Studies)』
査読無、第8号、2015、49-60.

https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=11530&item_no=1&page_id=13&block_id=49

Jian Zhou & Tetsuo MIZUKAMI. “Global City and Local Culture: 2014 International Symposium of East Asian Experiences in Urban Redevelopments.” 『グローバル都市研究 (Global Urban Studies)』
査読無、第8号、2015、1-4.

https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=11527&item_no=1&page_id=13&block_id=49

[学会発表](計10件)

MIZUKAMI, Tetsuo. “Transnational Actors in Central Tokyo: Increase in the Foreign Population and Migrants’ Social Cohesion.” International Symposium, *The Social Cohesion and Contemporary Urban Communities*. 2017. 3.14. Monash University, Melbourne (Australia).

MIZUKAMI, Tetsuo. “The Regional Trends of Japanese Migration: A Focus upon Australia.” *Japan in Australia Conference 50 Years of Japanese Studies*. 2016 11. 27. University of Queensland, Brisbane (Australia).

MIZUKAMI, Tetsuo. “Overviews on Tokyo.” International Conference, *Hope and Despair in Three East Asian Cities: Generations and Classes in Shanghai, Seoul, and Tokyo*.” 2016. 9. 30. Seoul National University, Seoul (Korea).

MIZUKAMI, Tetsuo. “The Characteristics of Japanese Migration to Australia.” International Research and Practice Conference, *Humanitarian Foundations of Social Progress: Russia and Modernity*. 2016. 4. 25. Moscow State University of Design and Technology, Moscow (Russia).

MIZUKAMI, Tetsuo. “Urban Regeneration Policies and Local Cultural Heritages: A Case of Toshima City in Central Tokyo.” International Symposium, *The Challenge of Preserving Identity and Community in Global Cities*. 2016. 3. 18. Universiti Sains Malaysia, Penang (Malaysia).

MIZUKAMI, Tetsuo. “Urban Renaissance Development and Municipal Renewal Projects in Inner City Tokyo.” International symposium, *The Urban Policies and Local Cultural Heritages in Global Cities*. 2016. 2.29. Monash University, Melbourne

(Australia).

MIZUKAMI, Tetsuo. "Urban Renewal Project and Cultural Heritage: A Case of Toshima City." International Conference, *Locality, History and Culture in Urban Regeneration*. 2015. 10. 30. The University of Seoul, Seoul (Korea).

MIZUKAMI, Tetsuo. "Contemporary Ethnic Communities in Japan: The Characteristics of Inner City Tokyo." International symposium, *The Challenge of Preserving Identity and Community in Global Cities*. 2015. 3. 2. Monash University, Melbourne (Australia).

MIZUKAMI, Tetsuo. "Ethnic Schools in Japan: Their Characteristics of the Yokohama District." International Symposium, *Global Migration and Transnational Activities in the Pacific Rim*, 2014. 10. 15. National Taiwan University, Taipei (Taiwan).

MIZUKAMI, Tetsuo. & Yuezhong DUAN. "The Effects of the Ethnic Business Enterprise on Local Shopping Mall in Central Tokyo." *XVIII International Sociological Association World Congress of Sociology* (第18回世界社会学会議横浜大会), "Facing Unequal World, Challenges for Global Sociology," 2014. 7. 18. Pacifico Yokohama (神奈川県・横浜市)

〔図書〕(計4件)

Ernest HEALY, and Dharma ARUNACHALAM, and Tetsuo MIZUKAMI. Palgrave Macmillan. *Creating Social Cohesion in an Interdependent World: Experiences of Australia and Japan*. 2016. 299 (3-31, 33-46).

吉成勝男・水上徹男・野呂芳明 現代人文社 『市民が提案するこれからの移民政策 NPO法人APFSの活動と世界の動向から』 2015. 203 (3-18, 187-199).

(共訳)水上徹男・細萱伸子・本田量久 日本評論社 『トランスナショナリズム』 (Vertovec, Steven. 2009. *Transnationalism (Key Ideas)*. Routledge) 2014. 270 (1-17, 76-77, 220-230).

水上徹男「インナーシティの危機と再生」松本康(編)『都市社会学・入門』有斐閣 2014. 326 (148-163).

〔その他〕

ホームページ等

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/tetsuo/jpn/index.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

水上徹男 (MIZUKAMI, Tetsuo)

立教大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：70239226